

EXECUTIVE SUMMARY

EDUCATION
UNDER ATTACK
2022

【教育を攻撃から守るための国際デー】
～私たちの学校を攻撃しないで～
紛争下の子どもたちの声をつなごう

HUMAN
RIGHTS
WATCH



2022年9月9日（金）20:00-21:00

開会までしばらくお待ちください

毎年9月9日

**教育を攻撃から守るための
国際デー**

本日のプログラム

1. セーブ・ザ・チルドレン ユースメンバー紹介
2. 学校の軍事利用について知る（動画）
3. 世界の紛争下の子どもたちの声を聴く（動画）
4. 学校が攻撃されるとは～教育への攻撃の現状
5. ユースと国会議員の対話

「変革を生み出すために何ができるのか？」

プログラムの最後に、自分たちにできると思うことや今日の感想を、アンケートフォームを通してお聞きします。

思ったことなど、メモを取りながら発表をお聞きください。

質問がある方は、Q&Aボックスを通しご質問ください。質問の際は、誰に対する質問を記載いただけますようお願いいたします。可能な範囲で、Q&Aボックスに回答を記入いたします。

本日のイベントについては録画をしておりますが、参加者のみなさんのお顔が映ることはありません。

セーブ・ザ・チルドレン ユースメンバー紹介

佐々木 優子さん
菊地 翔さん



上智大学院教育学専攻 2年

佐々木 優子

大学院での研究内容

国際教育開発について学び、パレスチナの学校での心理社会的支援について修士論文を執筆中。

ユースチームでの活動

2019年10月からユースチームに所属。紛争下の子どもたちの問題・教育に関するワークショップ・勉強会の開催、政策提言活動、SNSの投稿などを幅広く担当。



宇都宮大学国際学部4年

菊地 翔

大学での研究内容

国際法を専攻し、国際刑事裁判所（ICC）の賠償手続きへの子どもの参加について卒業論文を執筆中。

ユースチームでの活動

大学で子どもの権利について学ぶにつれ、自分でも世界の子どもに対してできることをしたいと考え、ユースの活動に参加。セーブ・ザ・チルドレンのインターンとして、子どものこころのケアに関するトレーニングキットの英語版を日本語版に翻訳中。

これまでのユースの取り組み

■ 自分たちの世代の考えや想いを、直接政治に届け、反映させるための政策提言活動

- ①「紛争下の教育を守ること」をテーマとした国会議員とユースの対話イベントの実施
- ②外務副大臣や、省庁関係者などへの個別の訪問 & 対話



これまでのユースの取り組み

■ユース世代の巻き込み、理解促進を目的とした、SNSを通じた紛争下の教育に関する記事の発信

ユースのInstagramアカウント : Will for Children

- ① 紛争下の子どもたちの意志や願い、**“WILL”**が尊重・実現される世界になってほしい
- ② 私たち一人一人が未来を変えていく、we **“WILL”** change the future”という決意



「教育を攻撃から守るための国際デー」に向けて…

- 8月・9月の2か月：ウクライナ、アフガニスタン、コンゴ、シリア、ミャンマー、ナイジェリア、パレスチナ、コロンビア、といった紛争の影響を大きく受ける国に関する記事を毎週投稿

- 1つの国について、下記の流れで記事を作成
 - ① その国の基本情報
 - ② 文化や食などに関する情報
 - ③ 紛争や子どもへの影響に関する情報

基本情報

面積：652,225平方キロメートル
(日本の約1.7倍)
人口：3,890万人 (2020年時点)
首都：カブール
言語：ダリー語
パシュトー語 (公用語)



挿入元：キッチンブック

食べ物



国民食
カブーリーブラオ




肉料理
チャブリカバブ

挿入元：キッチンブック

アフガニスタンの紛争

2001年9月11日のアメリカへの同時多発テロを発端に、アメリカが軍事作戦を開始
→タリバン政権を崩壊させ、新政府を樹立

しかし、アメリカ軍の撤退を機に、イスラム主義勢力のタリバンが、2021年8月15日に首都カブールを制圧




挿入元：
アムネスティ・インターナショナル

子どもへの影響

20年以上にわたる紛争により、
3万3千人以上の子どもが死傷

また、ジェンダーを理由に、女子生徒が教育へのアクセスを妨げられる事例も顕著

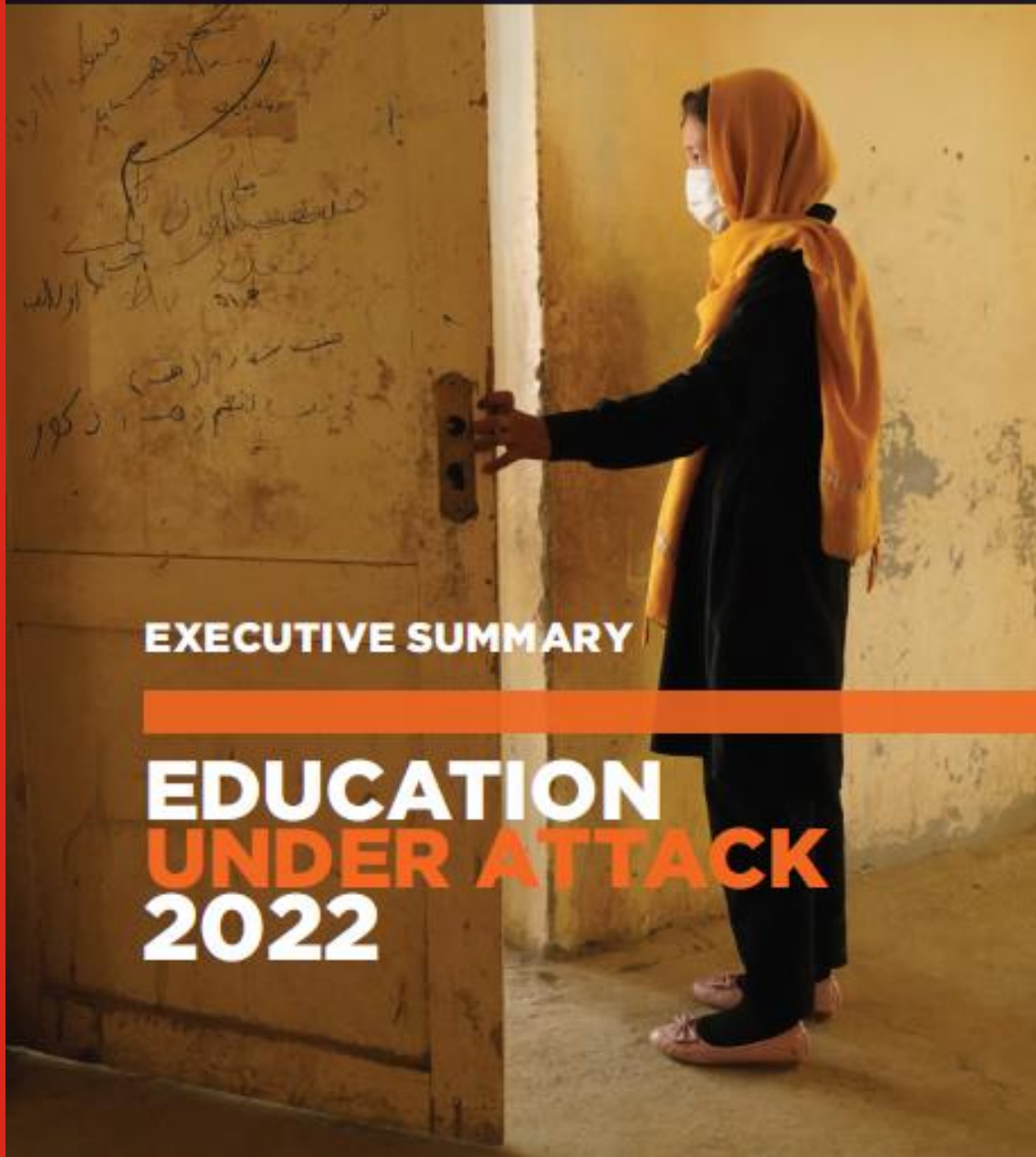


挿入元：セーブ・ザ・チルドレン

【動画】
学校の軍事利用とは
世界の紛争下の子どもたちの声

**学校が攻撃されるとは
～教育への攻撃の現状～
『攻撃される教育2022』より**

**セーブ・ザ・チルドレン
アドボカシースペシャリスト
大野容子**



EXECUTIVE SUMMARY

**EDUCATION
UNDER ATTACK
2022**

攻撃される教育2022

2022年9月9日
(公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
アドボカシー部 大野容子

「教育が攻撃される」とは？

学校（建物）への攻撃

生徒や先生への攻撃

学校や通学路での
性的暴力

学校や通学路で
連れ去られ
兵士などに

学校・大学の軍事利用

高等教育（大学・研究
所）などへの攻撃

(C)Save the Children

教育への攻撃は増加



- 教育への攻撃や学校・大学の軍事利用は、5,000件超
- 前回報告と比較し、教育への攻撃や教育施設の軍事利用は増加
- 9,000人以上の学生や教育関係者が拉致、一方的な逮捕、負傷、殺害の被害に

① 学校（建物）への攻撃



- 5つの教育への攻撃の形態のうち、学校への攻撃が最多でほぼ3分の2を占める。
- 学校への攻撃の影響を最も受けた国はコンゴ民主共和国、マリ、パレスチナ

②学校の生徒・教員に対する攻撃



- 学校の生徒・職員に対する攻撃：630件以上
- これらの攻撃で、2,400人以上の学生・教員・教育関係者が負傷、死亡、拉致、脅迫され、約2,300人が逮捕、拘束
- 特に少女・女性が標的に

③ 学校・通学路での子どもの徴兵・徴用

④ 学校・大学・通学路での性暴力



- 少年は兵士として、少女は兵士の世話や結婚の相手として、軍や武装勢力に徴兵・徴用される
- 政府軍、警察などの法執行機関、その他の国家による治安組織、非国家武装集団による、学校や大学での、あるいは通学路での性暴力は、依然としてデータ収集が最も困難

⑤ 学校の軍事利用



学校は民用物とは
みなされず、
軍事拠点と見なされる

尋問

- 教育施設の軍事利用の事例：570件
- 前回の報告から2倍以上に増加
- 軍事目的で使用された教育施設が最も多かったのはミャンマーで、200件以上
- 国連は、軍事クーデターが発生した2021年2月から9月までの間に、治安部隊が176の学校や大学を使用したと報告

なぜ紛争下であっても教育は大切？



- 大前提：すべての子どもは教育を受ける権利を持っている。
- 相互理解、平和、寛容を養う教育によって、紛争や暴力を予防し、安定した社会の建設の土台となる。
- 学校に通うことで、子どもたちは複数の目にさらされる→家庭などにおける暴力や虐待、性的搾取等から守る。
- 兵士に勧誘されるなどのリスクを減らせる。
- 学びを継続することで、児童労働や児童婚などから子どもたちを守る。
- 栄養・衛生、保健、地雷、麻薬などに関する適切な情報を得ることができる。
- 安全な環境で学びを続けることで、子どもたちに心理的な安心感を与える。
- 学校の機能があることで、コミュニティや子ども自身の日常を維持する。
- 何よりも、「紛争下の子どもたち自身が、教育を受けたい」と願っている。

(1) 学校を軍事利用してはならない「学校保護宣言」

SAFE SCHOOLS DECLARATION

The impact of armed conflict on education presents urgent humanitarian, development and wider social challenges. Worldwide, schools and universities have been bombed, shelled and burned, and children, students, teachers and academics have been killed, maimed, abducted or arbitrarily detained. Educational facilities have been used by parties to armed conflict as, inter alia, bases, barracks or detention centres. Such actions expose students and education personnel to harm, deny large numbers of children and students their right to education and so deprive communities of the foundations on which to build their future. In many countries, armed conflict continues to destroy not just school infrastructure, but the hopes and ambitions of a whole generation of children.

(2) 紛争など緊急下の教育の支援に特化した 「教育を後回しにはできない基金」



EDUCATION CANNOT WAIT



教育を後回しには
できない基金
EDUCATION CANNOT WAIT

**【ユースと国会議員の対話】
変革を生み出すために
何ができるのか？**

鈴木憲和 衆議院議員



2012年：衆議院議員に初当選

2018年：外務大臣政務官に就任

自民党の外交部会「わが国の人権外交のあり方検討プロジェクトチーム」座長

第53代目の自民党青年局長に就任

これまでの活動を通して感じる難しさと手ごたえ

難しさ

提案した政策が実行され、紛争下の教育に直接影響する成果を残すことができていない

手ごたえ

多くのユースと話をする中で、紛争下でも教育を継続する大切さを共感してもらえた。分かち合えることが第一歩と感じる

難しさ

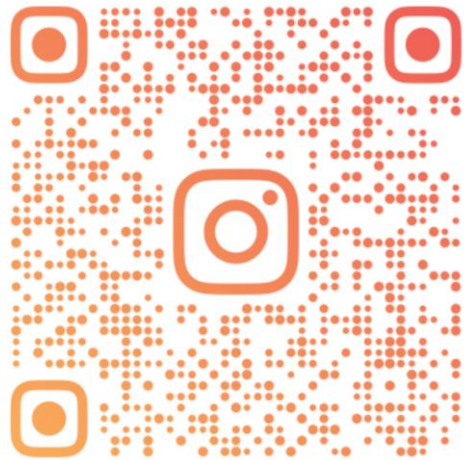
「学校保護宣言」や「教育を後回しにはできない基金（Education Cannot Wait : ECW）」の拠出への取り組みを行っていく中で、日本政府の指針との壁を感じる

手ごたえ

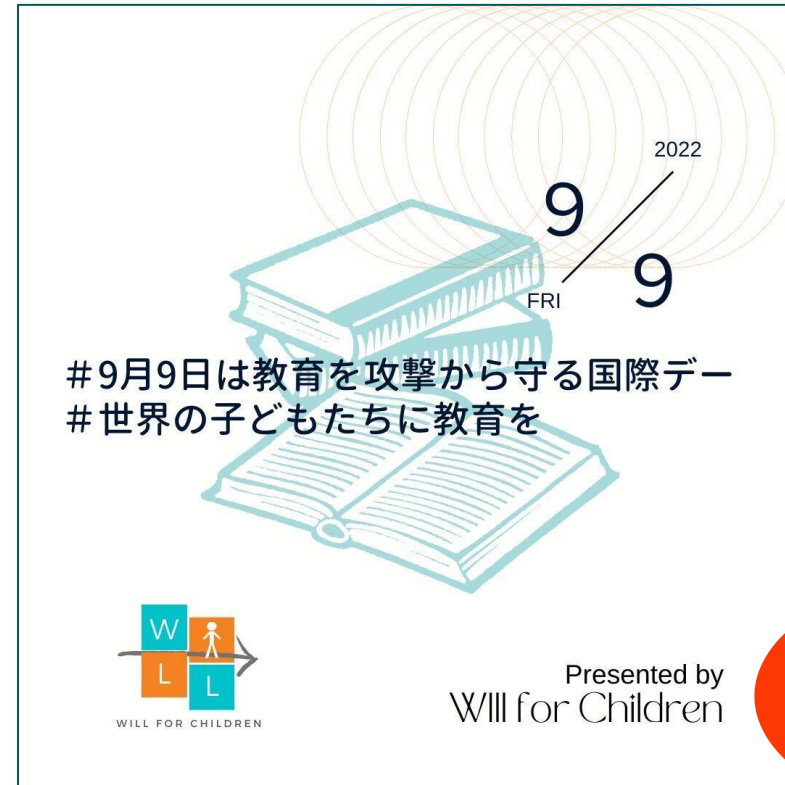
議員との意見交換やSNSでの発信を通じて、少しずつではあるが、自分たちの言葉を通じて、ユースや子どもの関心を集めることができていると感じている

【参加者のみなさんへの質問】
紛争下の教育、
子どもたちを守るために
できると思うことは？

ユースのInstagram : Will for Children



WILL_FOR_CHILDREN



ぜひ投稿を
お願いします！

9月9日は教育を攻撃から守るための国際デー
世界の子どもたちに教育を

**紛争下の教育や子どもたちを
攻撃から守るための輪を、
ここから広げよう！**

本日はありがとうございました